

平成21年7月31日

各位

上場会社名 大幸薬品株式会社
 代表者 代表取締役社長 柴田 仁
 (コード番号 4574)
 問合せ先責任者 常務取締役 吉川 友貞
 (TEL 06-6382-1135)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,749	98	116	90	21.36
今回発表予想(B)	4,136	1,191	1,212	810	63.55
増減額(B-A)	1,386	1,092	1,095	719	
増減率(%)	50.4	—	937.9	792.8	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	—	—	—	—	—

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,515	931	948	584	137.55
今回発表予想(B)	7,643	1,495	1,515	907	71.14
増減額(B-A)	1,127	563	566	322	
増減率(%)	17.3	60.5	59.7	55.2	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	6,094	894	843	470	110.72

修正の理由

当第1四半期連結会計期間において、新型インフルエンザの発生を契機に感染管理事業の売上高は急伸し、910百万円程度を計上する見込みとなりました。さらに当第2四半期連結会計期間以降もドラッグストアやコンビニエンスストア向けを中心として、当社の感染管理製品「クレベリンシリーズ」に対する需要の拡大が見込まれていることから、当連結会計年度における当該事業の売上高は当初の計画を大幅に上回る見込みとなりました。また、国内止瀉薬市場の縮小の影響は依然あるものの、シェアの維持により、主力製品「正露丸」・「セイロガン糖衣A」を中心とする医薬品事業につきましては計画通りの推移を見込んでおります。一方、当第1四半期連結会計期間における販売費及び一般管理費は、売上高の拡大に伴って増加することもなく推移し、当第2四半期連結会計期間以降も同様の見通しであることから、営業利益、経常利益及び当期(四半期)純利益も当初の計画を上回る見込みであります。

これらにより、平成21年5月15日に発表致しました当第2四半期連結累計期間及び当連結会計年度における連結業績予想を上記の通り修正致します。

なお、当連結会計年度における修正後の医薬品事業の売上高につきましては、ほぼ当初の計画通りとなる4,758百万円を、感染管理事業の売上高につきましては、当初の計画に対し1,123百万円増(65.3%増)となる2,843百万円を見込んでおります。

※当社は、前期第2四半期連結会計期間において四半期連結財務諸表を作成していないため、当該期間の実績値を記載していません。

※平成21年7月15日に発表致しました通り、平成21年8月1日付にて株式1株につき3株の株式分割の実施を予定しており、今回発表予想の1株当たり当期(四半期)純利益は、当該株式分割を反映した株式数により算出しております。また、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合は、前回発表予想の当第2四半期連結累計期間の1株当たり四半期純利益は7円12銭となり、通期の1株当たり当期純利益は45円85銭となります。さらには前期実績の1株当たり当期純利益は36円91銭となります。

※上記の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上